

ピュアコート溶剤 塗装マニュアル

目次

- P2 ピュアコート溶剤塗装工程
- P3 下地塗膜
- P4 養生、塗装前に
- P5 塗装条件
- P9 塗装方法
- P11 親水性の確認
- P12 補修
- P13 注意事項
- P15 安心塗装チェックシート

記載事項に関する問い合わせ先→

株式会社ピアレックス・テクノロジーズ
本社&研究センター

[TEL:0725-22-5361](tel:0725-22-5361)

〒595-0016 大阪府泉大津市条南町4-14

PIALEX TECHNOLOGIES

① 下地確認

下地は十分に乾燥しているか？
目安：夏季24時間以上
冬期36時間以上

② 養生

塗装しない箇所をしっかりと養生！

③ 塗装

施工要領書に従って
塗り残しがないように

④ 親水性確認

霧吹き器による親水性確認！！
塗膜が十分に乾いてから

⑤ 完了

全体の仕上がりを確認
タレ跡や塗装ムラに注意

① 下地確認

下地は十分に乾燥しているか？

目安：夏季24時間以上

冬季36時間以上

・なんで1液の溶剤系塗料には塗装できないのか？

→1液の溶剤系塗膜上に塗装した際、塗膜の硬化度合や色彩により、クラック等の外観異常や防汚性(親水性)に不具合が生じる可能性があります。

・なんで下地は、淡彩色が推奨なのか？

→ピュアコート溶剤は、光触媒を含有しているので、完全なクリアーではありません。従って、白ボケ等が発生する可能性があります。

(淡彩色の例)

無彩色の場合、日塗工 N-50以上 マンセル値 N5以上推奨

・なんで下地は十分に乾燥してないとダメなのか？

→ピュアコート溶剤を乾燥していない塗膜に塗装すると

下地の乾燥が遅くなり、白濁化やチョーキングの原因になって、防汚性(親水性)も出にくくなるからです。

また、下地の結露にも注意してください。

下地塗膜の乾燥時間は下地塗料メーカーの推奨時間を目安にしてください。(夏季24時間以上、冬季36時間以上)

下地が万全でない、ピュアコート溶剤の白濁化やチョーキング等不具合が発生する場合がありますので、塗装前に再度確認をしてください。

②養生

塗装しない箇所をしっかりと養生
飛散するので周辺も

ピュアコート溶剤は吹き付け塗装専用なので、塗装しない箇所にはしっかりと養生をしてください。
万が一付着した場合はすみやかにふき取り除去してください。

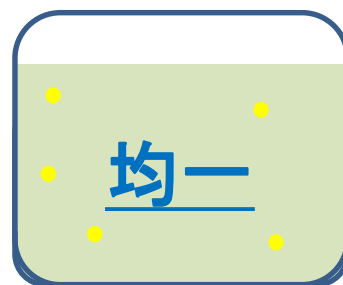
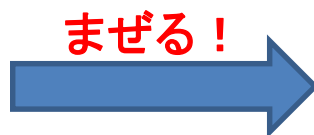
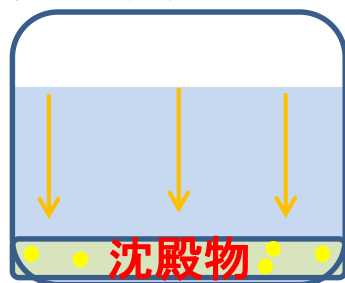


③塗装

施工要領書に従って
塗り残しがないように

塗装の前に・・・

ピュアコート溶剤は光触媒が底に沈殿している場合があります。
開封前に容器を振って攪拌を行ってください。
塗装前は必ず目視で容器の底部に沈殿物がないことを確認してください。
→そのまま塗装した場合、塗装ムラ等不具合になる可能性があります。

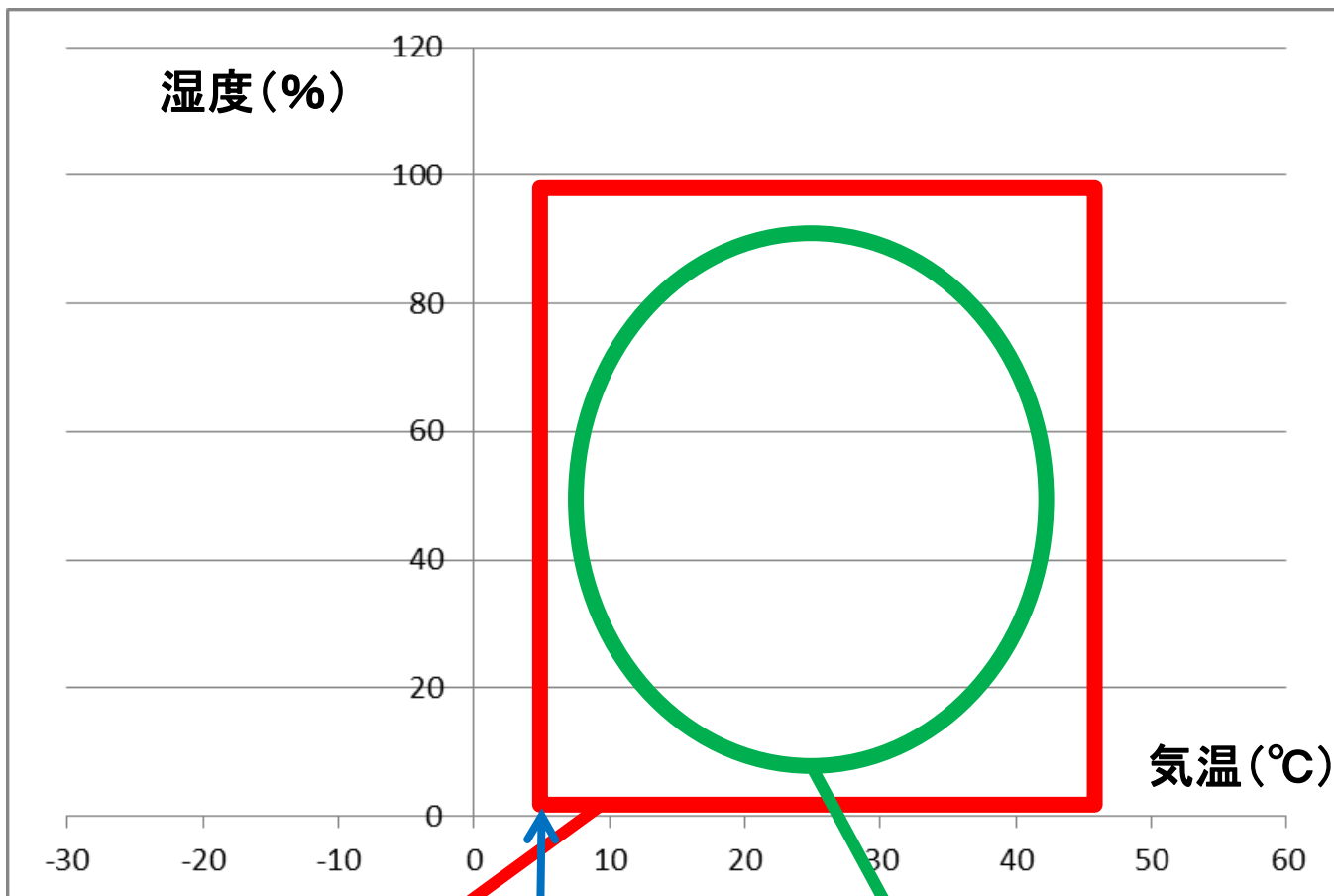


③ 塗装

施工要領書に従って
塗り残しがないように

塗装の前に...

ピュアコート溶剤を塗装するときの気候条件に関して



塗装可能条件

塗装好適条件

気温5°C未満の時は塗装できません。

→ピュアコート溶剤は、気温が5°C未満の時に塗装すると乾燥不良等による不具合が発生します。

③ 塗装

施工要領書に従って
塗り残しがないように

塗装準備

塗装器具をIPA(イソプロピルアルコール)もしくはシンナーで十分に洗浄してください。

→違う塗料や溶剤に混ざると塗装機が詰まる可能性があります。

塗装機仕様

	チップ	口径 (mm)	吐出圧 (MPa)	空気圧 (MPa)
エアコートガン エア圧 0.1~0.3 MPa	精和産業社製 ターンWチップ0940	0.23	4~5	0.1~0.3
	ワグナー社製 3000ACチップ9/40or9/50	0.23	4~5	0.1~0.3
エアレス塗装機	精和産業社製 ターンWチップ(ACG用)0940	0.23	4~5	—
	ワグナー社製 トレードチップ2 9/40or9/50	0.23	4~5	—
カップガン 1馬力以上	口径1mm パターン幅30cm	1.0	—	0.2~0.3

・大きな口径のチップを使ったらどうなるのか？

→吐出量が多くなり、ムラやタレの原因になります。

・小さい口径のチップを使ったらどうなるのか？

→吐出量が少なくなり、機能不良(親水性不足)になります。

上記塗装機仕様はかならず守ってください。

エアレススプレーガン



精和産業社製
ターンWチップ(ACG用)
0940



ワグナー社製
トレードチップ2
9/40or9/50

エアコートスプレーガン



精和産業社製
ターンWチップ
0940



ワグナー社製
3000ACチップ
9/40or9/50

カップガンスプレー



口径1 mm以下

ローラーNG
刷毛NG

③ 塗装

施工要領書に従って
塗り残しがないように

ピュアコート溶剤塗装仕様

塗装方法	スプレー吹付(ローラー厳禁)	
吹付回数	2回	
使用量	1回: 0.035~0.045 kg/m ² 2回合計: 0.07~0.09 kg/m ²	
塗装可能面積	10 kg: 89~114 m ² 3 kg: 33~42 m ²	
塗り重ね間隔 (指触乾燥)	夏	30分
	冬	1時間
親水性確認までの乾燥時間	夏	3時間
	冬	24時間
完全乾燥時間	通年	2週間~1ヶ月

施工条件や環境によって変化する場合があります。

使用量は2回の合計値です。

**1回目0.035~0.045kg/m² + 2回目0.035~0.045kg/m²
合計0.07~0.09kg/m²**

・使用量が少ないとどうなるのか？

→防汚性(親水性)が弱くなり、ピュアコート溶剤の効果がなくなる場合があります。

・使用量が多いとどうなるのか？

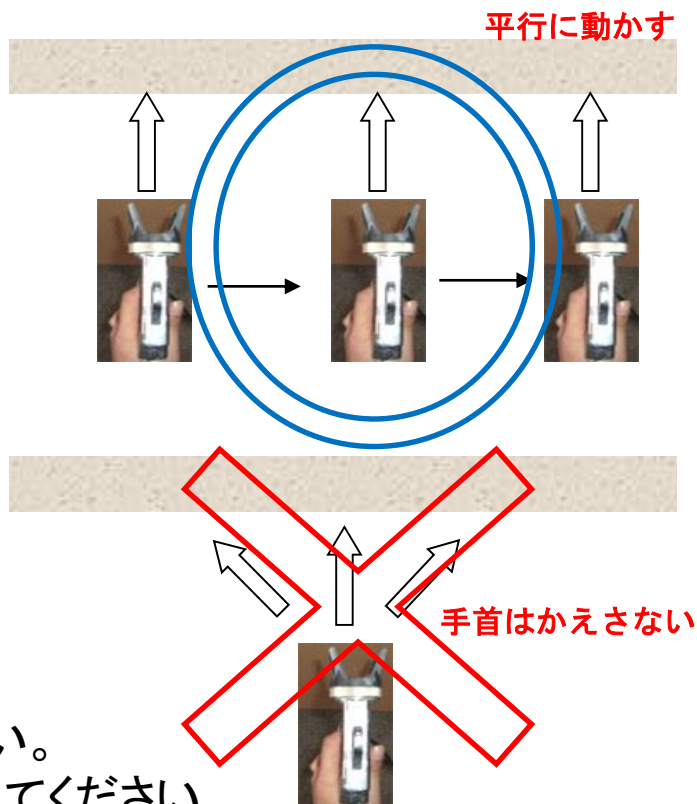
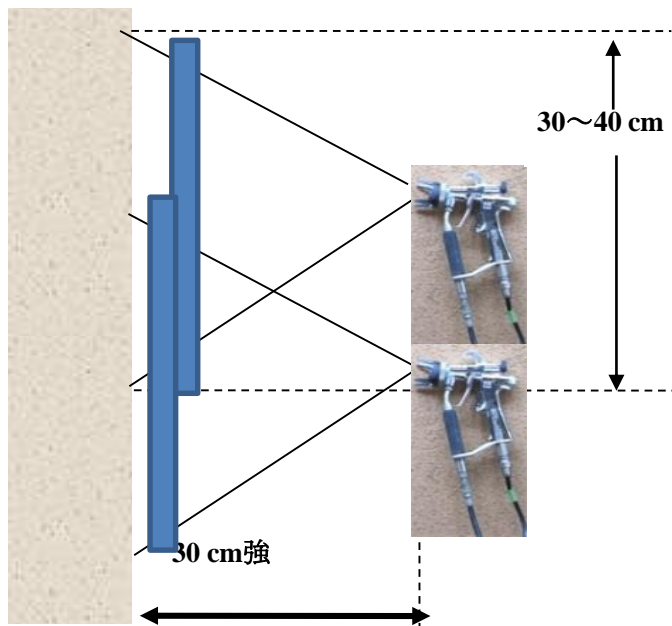
→塗装後に白濁したり、タレ跡やムラが発生する場合があります。

適量で均一に塗装する事が重要です。

③ 塗装

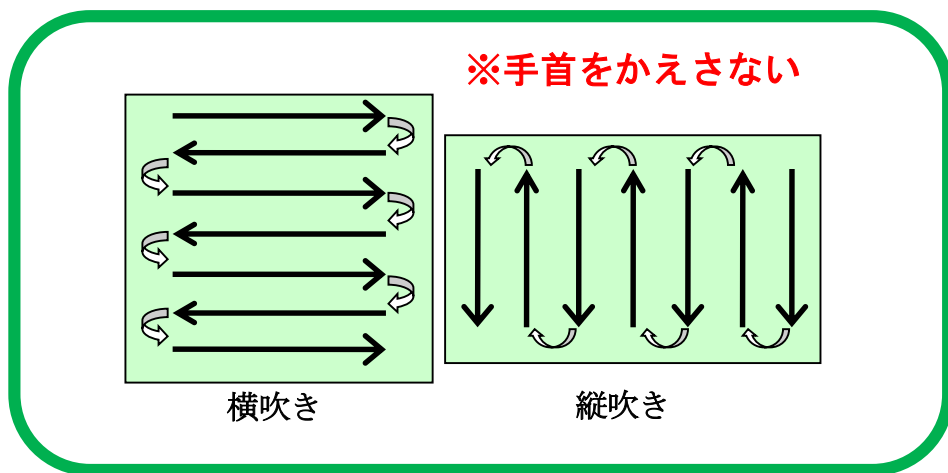
施工要領書に従って
塗り残しがないように

塗装方法



距離や動かし方に注意してください。
塗装面とは可能な限り垂直を保ってください。

吹付速度の目安: 平滑面1m²を30~50秒で塗装
凹凸面1m²を30~60秒で塗装



横縦で1回です。
インターバルにも
十分注意して
ください。

③ 塗装

施工要領書に従って
塗り残しがないように

塗装工程

1回目
塗装

横＋縦で1回
使用量は**0.035～0.045kg/m²**

吹付速度は平滑面1m²を30～50秒
凹凸面1m²を30～60秒

インター
バル

夏季30分
冬季1時間以上
→タレやムラの原因になります

2回目
塗装

1回目塗装と同じ
横＋縦で1回
使用量は**0.035～0.045kg/m²**

吹付速度は平滑面1m²を30～50秒
凹凸面1m²を30～60秒

塗装
確認

ピュアコート溶剤の使用量を確認
してください

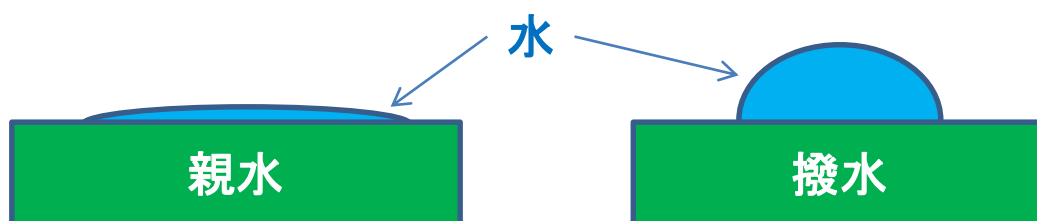
④親水性確認

霧吹き器による親水性確認
塗膜が十分に乾いてから
行ってください

・親水性ってなに？

→塗膜表面が水になじむ事です。

この現象によって、雨水とともに汚れも流れ落ちます。



ピュアコート溶剤が正しく塗装された箇所は
表面が親水性になっています。

従って、塗装面に霧吹き器などで水をかける事により
正常に塗装できたかどうか確認する事ができます。

霧吹き器等で親水性を確認する際は・・・

ピュアコート溶剤塗装後

夏季：**3**時間以上

冬季：**24**時間以上

十分塗膜を乾燥させてから行ってください。

→乾燥してないうちに水をかけると、ピュアコート溶剤も
水といっしょに流れ落ちる可能性があります。

※親水性の確認が難しい時はピュアコート溶剤塗装時の
養生テープで簡易に確認できます。

⑤完了

全体の仕上がりを確認
タレ跡や塗装ムラに注意

補修について

キズ等の小規模な補修について

→補修部分をイソプロピルアルコールやシンナー等で拭き取り再度刷毛等で塗装してください。

(十分にしごいた刷毛等で1回塗り)

塗料のタレ等が残ってしまった

乾燥前→すぐにウエスでふき取って再度施工してください。

乾燥後→イソプロピルアルコールやシンナーでふき取ってから、再度吹き付け塗装してください。

仕上がりの外観異常(白ボケ、斑が目立つ等)が発生した

→再度着色からやりなおし、ピュアコート溶剤を塗装してください。

親水性が弱い

→再度、晴天時にピュアコート溶剤を再施工して下さい。

(原因としては、下塗施工後の養生時間が短かった。

湿気が高い、降雨等が考えられます。)

完全乾燥したピュアコート溶剤塗膜はリコートができます。

ピュアコート溶剤の注意するところ

不具合の原因を知っておけば未然に防げます！！

天候条件

降雨、降雪等の天候不良

結露
高気温
低気温
高湿度
強風

下地状態

未乾燥下地への塗装
シーラー塗り忘れ
下地の吸い込みムラ
下地の乾燥ムラ
パテ補修痕
モルタル等の補修痕

塗料攪拌不足、不適切な塗装方法
塗装速度が一定しない
吹付距離が近い、吹付距離が遠い
吐出量が多い、吐出量が少ない

塗装方法



←このような仕上がりにならないように
上記項目に十分注意して、
ピュアコート溶剤を塗装してください。

白濁痕と塗装ムラ

塗料性状と注意事項

荷姿	ポリ容器 5 L容器:3 kg・13 L容器:8 kg
液性状	乳白色液体、特異臭
消防法による危険物区分	危険物 第四類 第一石油類 水溶性 危険物等級II
安衛法表示対象物質	イソプロピルアルコール(IPA)、酢酸ブチル
比重(at25℃)	0.8
粘度(at25℃/B型粘度計)	6.0±2.0 sec
pH	8.0~10.0

ピュアコート溶剤は光触媒を含有していますので、塗装後の仕上がりが白くなる可能性があります。濃彩色は白ぼける可能性がありますので、必ず淡彩色に使用してください。

艶消し傾向があります。艶が半減することを目安に御使用ください。

施工を行う前に一度試験施工で仕上がりの確認を行ってください。

開封後14日以上経過したものは使用不可なので廃棄してください。

未開封であっても保存期間は半年です。

火気厳禁のため、冷暗所で保存し、火器を使用しないでください。

廃棄の際は、河川や土壤に流さないでください。

施工中、気分が悪くなった場合は医師の診察を受けてください。

施工要領書、SDSの資料が必要な場合、ご購入いただいた販売店へお問い合わせください。

塗装前にもう一度、当塗装マニュアルを御確認ください。



塗装時は、ヘルメット、保護メガネ、手袋、マスク等安全対策をして、換気には十分注意して塗装を行ってください。

記入してみましょう！

- ① 塗装年月日
- ② ピュアコート溶剤 Lot.No.(製造番号)
- ③ 下地塗料 a.製造元、品名、色、艶
b.下地乾燥状態(下地塗装からの経過時間)
- ④ 塗装面積とピュアコート溶剤使用量(缶数)
- ⑤ ピュアコート溶剤塗装時の天候、気温、湿度
- ⑥ 塗装方法(エアレスorエアコートorカップガン)
- ⑦ コンプレッサーとチップ
- ⑧ 塗装機器の洗浄
- ⑨ ピュアコート溶剤の使用前攪拌
- ⑩ 塗装条件 吐出量
塗装面との距離
ガンの移動速度
塗装中の塗料攪拌
1回目と2回目の塗装間隔時間
- ⑪ ピュアコート溶剤乾燥時の天候、気温、湿度
- ⑫ 親水性の確認
- ⑬ 補修箇所と補修方法
- ⑭ 仕上がり感

